

審判のコールとゲームの進め方

☆両チームを集合・整列させ対戦チームを確認し、握手・あいさつを行う。

☆審判は主審側に主審・副審とも整列し、審判の自己紹介を行う。

☆最初の対戦ペアを残し、トス（じゃんけん）を行いサーブ&コートを選択をさせる。

※練習時間が決められている場合は、規定の時間が来たら

- ① 「レディ」とコールし各自のポジションにつくよう指示する。
 - ・ サーバー側とレシーバー側のチーム及び選手名を確認する。
- ② 「プレイボール」とコールし試合開始を指示する。
- ③ サーブしたボールが所定のエリアに入らなかった場合は「フォルト」とコールする。
- ④ サーバーがサーブを完了する前にサービスエリアを出るか、ベースラインを踏んだ等の不正なサーブを行ったときは「フットフォルト」とコールする。
- ⑤ サーブしたボールがネットやポストに当たって所定のエリアに入った場合は「レット」とコールしサーブのやり直しを指示する。
- ⑥ 以後プレーの進行にあわせ、各ポイントをサーバー側からコールする。
(コールは、ゼロ・ワン・ツー・スリーとし、ポイントが同じ時は〇〇オールとコール
双方のポイントがスリーポイントとなった時はデュースとコールする。)
- ⑦ デュースのあと、サーバー側がポイントを取った時は「アドバンテージサーバー」とコールし、レシーバー側がポイントを取った時は「アドバンテージレシーバー」とコールする。再び同点となった時は「デュース」とコールする。
- ⑧ 主審がコールを間違ったときは「コレクション」とコールし直ちに訂正する。
- ⑨ プレー中での殆どのコールが「アウト」となるが、補足的説明として臨機応変に「オーバーネット」「ネットタッチ」などのコールも可能である。
◎そのほか「ボディータッチ」「インターフェア」「ノータッチ」「ドリブル」等もある。
- ⑩ そのゲームが終了したときは「ゲーム」とコールする。
 - ・ チェンジサーブが行われているか確認する。
 - ・ 奇数ゲーム終了時点でチェンジコートを行う。
- ⑪ 次のゲームが始まる前に「ゲームカウント〇-〇」とサーバー側からコールする。
- ⑫ ゲーム終了時点で「ゲームセット」とコールし勝敗を決する。

副審の任務と動作

☆ゲームの始まる前に、主審側に主審・副審とも整列し、審判の自己紹介を行う。

- ① 副審の立つ位置は主審の反対側正面に立つ。
- ② サーブが行われるときはサービスライン側に寄りボールの落下地点をチェックし、フォルトの時は、手のひらを自分側に向けて、腕を直角に上げて主審に合図をする。
- ③ サーブが終わったら中央に戻りボールの落下地点をチェックする。
- ④ 線審がつかない場合でもコート全体を注視するが、特に副審側を中心にボールの落下地点をチェックする。
- ⑤ ラリーの状況により立つ位置を見やすいところに移動してボールの落下地点をチェックする。
- ⑥ ボールがラインの外側に出ている場合は腕を直角に上げて主審に合図する。
- ⑦ きわどい「イン」の判定の場合は手のひらを下に向け「イン」の合図をすることも可能である
- ⑧ 「オーバーネット」や「ネットタッチ」の合図をすることも可能である。
- ⑨ 副審はジェスチャー（動作）のみとし、コールをしてはならない。
- ⑩ 動作は素早く、明確に行いましょう。
- ⑪ 副審の任務は、あくまでも主審の判定への情報提供であり、副審の判定でプレーが決定することはない。

注：2017. 8. 27ルール改正

- ウェア上下は黄色、オレンジ系統は着用しない。
- サーブの空振りは失ポイントとなる。
- 故意の二度打ちは「ドリブル」となる。
- 失ポイントになる時「ボディタッチ」「インターフェア」「タッチネット」「オーバーネット」「ノータッチ」
- コールをするのは主審のみなので、プレーヤーは「ウォッチ」「見て」等と言う。
(※詳細は全国スポンジボールテニス協会の競技規則)